

「神の喜ばれる教会」エペソ4：1～3、15、31、32 12・3・ I 先行する神の恵みを忘れず感謝する教会。父なる神の大きな愛。子なる神、キリストの十字架の恵み。聖霊なる神の内住、心に住み交わって下さる恵み。II 「平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保つ教会」：3。1. 御霊の一致ではない一致→①悪口の一致。真の解決の為の話し合いではなく、ある人を悪く言うことだけの交わりは、最後に祈れなくなる。なぜなら、一人一人の心に宿っておられる聖霊が悲しまれるから。交わり宿って下さる聖霊の臨在を悪口は消してしまうから。②ある思想、考え方の一致。③主を間に置かない一致。④主を中心としない一致。⑤主と主の御言葉を土台としない一致。2. 御霊の一致、真の一致とは→①同じ主を信じる事により生まれる一致。②心に住まれる御霊が造られる一致。御霊の一致を「造りなさい」とは命じられていない。私たち人間は、決して自分たちで真の一致を造り出せない。真の一致を生み出すのは御霊なる神。私たちは、造るのではなく、御霊が既に与えられた一致を「保ちなさい」と命じられている。③御霊が記者たちに働かれて完成した66巻の聖書の御言葉を信じ、正しく理解し、御言葉を土台とする一致。3. 御霊の一致を保つ道。①人につくのではなく、一人一人が、神に近づく。そうするとお互いの距離も近づく。図を参照。②どんなに親しくなっても、いつも間に主を置く。一緒に憤り、同化するのではなく、主を間において、相手と自分を健全に区別し、互いに主にある正しい助言ができる関係を保つ。それが徳を高め合う交わり。③お互い皆、違いを持っている、違う意見もあり、立場も違うと受け取り方も感じ方も違うので、祈りつつ神から愛をいただき「謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合う」(：2)。④この地上では、悪魔の策略により、教会の御霊の一致を壊そうとする間違った教えや悪口、うわさが起こる事は避けられない。大切な事は、それらに振り回されないよう、しっかり御言葉を蓄え、御言葉で養われ続ける事。「私たちがもはや、子どもではなくて、教えの風に吹き回されたり、波にもてあそばれたりすることがなく」4：14。この地上では、悪口や惑わそうとする噂をなくす事が出来なくても、それらを聞く自分自身の心と耳を御霊により守られるように祈る事ができる。つまり、「悪口や噂に惑わされないように守って下さい。片方からだけの言葉で、物事の真実を判断する事はありませんように。物事には、色々な面があり、それぞれが、立場により、性格、気質により、とらえ方、感じ方が違う現実を受け止める事ができますように」と祈ることができる。「私にとっては、あなたがたによる判定、あるいは、およそ人間による判決を受けることは、非常に小さなことです。…私をさばく方(最終的に正しい判断をされる唯一の方)は主です。ですから、あなたがたは、主が来られるまでは、何についても、先走ったさばきをしてはいけません。主

は、やみの中に隠れたことも明るみに出し、心の中のはかりごとにも明らかにされます。そのとき、神から各人に対する称賛が届くのです」Ⅰコリ4：3～5。Ⅲ「愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達する」ことを祈り目指す教会。：15。1. 未信者の方々に、愛の関係作りなしに真理、福音を語っても耳を傾けてくれない。「愛をもって」。関係作りが大切。主が心に住んでおられる者としての存在としての香りが証し。言葉の前に、愛の振舞い、仕える事が大切。イエス様も、まず、へりくだり、地に下り人となり、仕えられた。その後、福音を伝えられた。私たちも、その模範に見習いたい。2. キリスト者同士も、愛をもって真理を語る関係。真の愛は真理を語る。また、愛もなく真理、真実だけ語るなら、お互い、心を閉ざす。相手の人格を愛して、真理を語る。人格と意見を区別し、意見が違ってても愛し合う教会とされる主。「あなたがた自身が善意にあふれ、すべての知恵に満たされ、また互いに訓戒し合うことができることを、この私は確信しています」ローマ15：14→「あふれる善意」と「訓戒し合う」ことのバランス、両方が大切。3. 「かしらなるキリスト」。教会のかしらは、キリスト。それゆえに、主の教会は、人の顔色を恐れて事を決めたり動いたりするのではない。主の教会は、主の御顔を恐れ敬い、かしらなる主の御心は何かを常に祈り求める。「人を恐れるとわなにかかる。しかし主に信頼する者は守られる」箴言29：25。Ⅳ「お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合」う教会。：32。主の教会とは、自分自身が罪人のかしらであり、神の大きな愛で赦された者、神の大きな恵みと愛と憐れみで生かされている者と自覚している人の集まり。人との関係で難しい所を通せられる時、大切な事は、「赦しなさい」の前に「神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように」がある、恵みが先にある事を決して忘れてはならない。また「互いに赦し合いなさい」と命じられている。片方だけが傷ついているのではなく、互いに傷ついている。「傷ついた、つまずいた」と声がある時、声に出せない人も「傷つき、つまずいている」事を忘れてはならない。それゆえに、正に神は「互いに」赦し合いなさいと命じられるのである。また、互いに赦し合うという事と互いに必要な事を愛をもって語り合う、ある時は柔和な心で正すことは矛盾しない。両方ともに大切である。「もしだれかがあやまちに陥ったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい」ガラ6：1。「互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満をいまくことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい」コロ3：12, 13。主の赦しが先にある恵みに感謝したい。